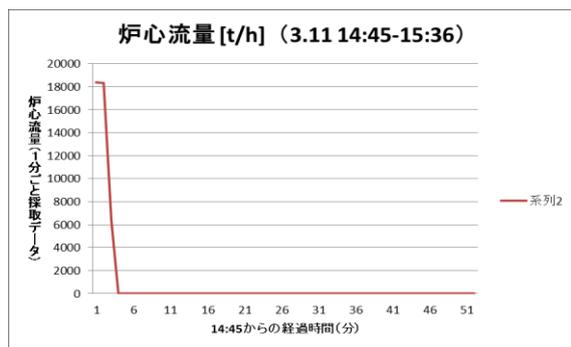


★ 「木村俊雄氏論考」への3つの疑問 ★

『文芸春秋』2019年9月特別号の木村俊雄氏（元東京電力・原子炉設計管理担当）の「福島第一原発は津波の前に壊れた」（pp.170-177）について、地震動の影響を究明しようとする問題意識は共有しますが、筆者はいくつかの疑問を持ちました。ご本人（『鳴り砂』・風の会HPを見る機会があれば）・読者からの反論は大歓迎です。

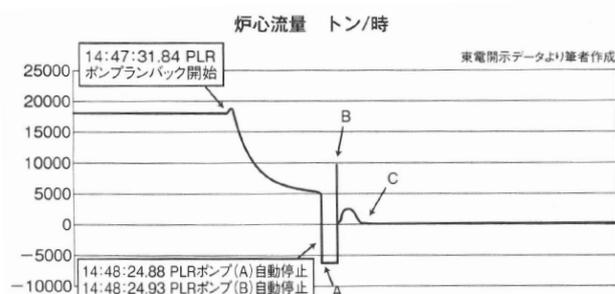
木村氏は2013.7追加公開の「過渡現象記録装置」の100分の1秒毎の膨大な「炉心流量」データを分析・グラフ化し、地震前の「18,000トン/時(t/h)」から、14時46分地震発生1分30秒前後から「炉心流量はゼロになっています」と述べ、そのことから、原子炉内での水の「自然循環」がなくなり、燃料の「ドライアウト」が1分30秒前後から起こっていた可能性が高いと指摘し、「自然循環」停止の原因は「私が分析したデータや過去の故障実績を踏まえ」「ジェットポンプ計測配管」破損の可能性が高い、と推定しています。

筆者は上記100分の1秒毎のデータを入手し

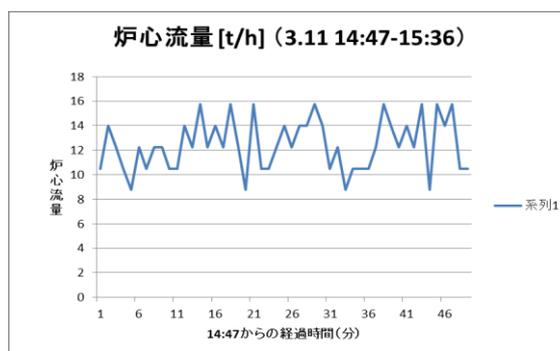


次に、筆者の理解では、炉水の「自然循環」は、地震後に再循環ポンプによる「強制循環」が停止した後、①燃料棒周辺で発生（沸騰）した「水蒸気の泡（あわ）」（木村氏のいう「気泡」）が、液体の水より著しく軽い（低密度）ため、“大きな浮力”で上昇し（周囲の高密度の水から浮き上がり）、②炉心から原子炉上部（シュラウド内）へ移動した水蒸気泡の空隙（炉水の減少）を埋めるように、水が下部プレナムから炉心へ自然に補充・供給され、③さらに下部プレナム内の水が炉心へ移動（減少）した分は、ジ

ていませんので、2013.5追加公開の1分毎のデータ【次々頁(P3)】を見たところ、確かに地震前は「18,300t/h程度」の炉心流量があったものの、地震後にはその約1800分の1の「10t/h前後」にまで激減していることが分かりました。ここで重要なのは、「炉心流量はゼロでない」ことです。

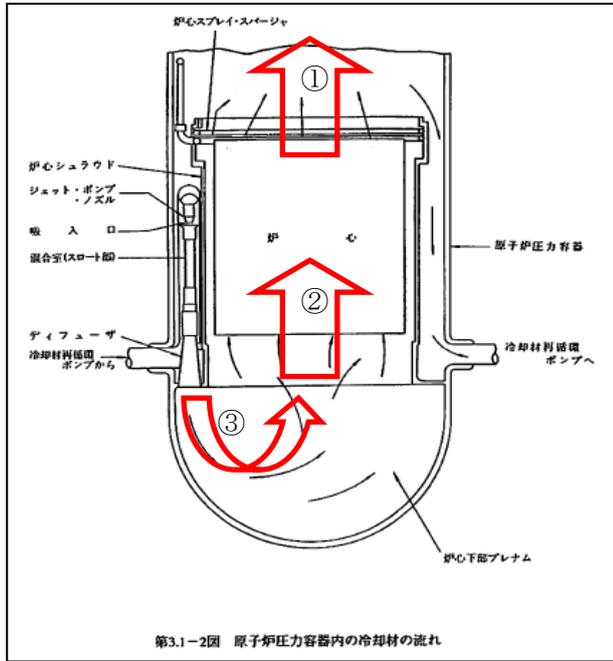


上記1分毎データを<左図>のように地震前の炉心流量をフルスケールでグラフ化すると、地震後は「ゼロ」に見えますが、<右図>のように地震後（14:47～）だけをグラフ化（拡大）すれば、炉心流量は「ゼロでない」ことは明らかです。



ェットポンプノズルからシュラウド外にある水を引き込んで補充、という炉心冷却の一連の水の流れが自然に生じます【次々頁左上図：福島第一原発・2002.4原子炉設置変更許可申請書】。このような自然循環の仕組みで「炉心流量」はゼロとはならず、燃料棒の冷却も“それなりに”継続すると思います。このように、水蒸気泡の“大きな浮力”を考慮すれば、燃料棒（崩壊熱：自然循環の駆動源）による「①水蒸気泡の発生・上昇」は自然に起こり続けるはずで、木村氏が懸念した‘気泡が燃料被覆管表面にびっしりと

張り付き、それが壁となって冷やすことができなくなる＝ドライアウト’は、地震直後には生じていないのではないかと思います。そのことは、前述の炉心流量が存在する（張り付いた気泡を除去する役割を果たす）こととも整合します。地震直後の主蒸気隔離弁（MSIV）閉による原子炉圧力の緩慢な上昇（その後 14:52 の非常用復水器 IC 2 系統の自動起動）も、炉心の崩壊熱により水蒸気泡が絶えず生み出され続けている（①）＝自然循環が機能している証拠だと思えます。



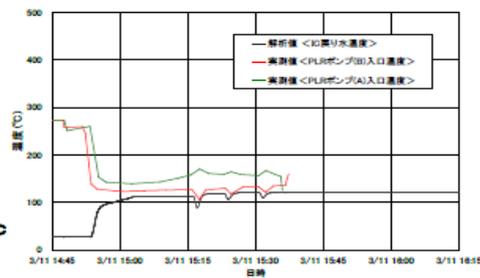
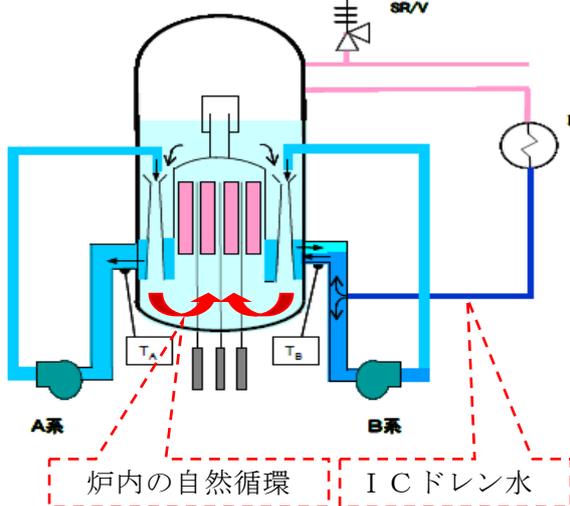
さらに、2011.12.9 JNES 解析【下図：赤矢印・吹き出し加筆】でも、再循環ラインの自然循環が仮定されています。実際に1分毎データで「再循環（PLR）ポンプ入口温度」を見ると、IC 作動時に冷やされた IC ドレン水が再循環ライン B 系に流入することが示され、一方、IC 作動で主蒸気・炉水が減少（減圧）した炉心・下部プレナムにはジェットポンプ経由の自然循環で水が供給補充されるはず（IC は炉水を循環させるだけ）なので（③）、炉心下部から炉心燃料域への自然循環（②）も当然に生じていると考えられます。

最後に、木村氏は、自然循環停止原因について「細いジェットポンプ計測配管」が地震動で破損した可能性を挙げていますが、その根拠や、その破損で自然循環が止まるメカニズムを全く示しておらず、残念ながら同配管の詳細を知らない筆者には、20本あるジェットポンプの当該配管1本（まさか20本全部？）の損傷が炉心全体に影響する理由（破損した配管破片の目詰まり？）が全く推測できません。前述のとおり、炉水の自然循環は崩壊熱による「①水の加熱、②水蒸気泡の発生」があれば続くはずで（1分毎データでは炉心流量は実際にゼロでない）、それを完全にゼロにするような炉心の「全流路完全閉塞」が（細い）配管の破損によりもたらされることはあり得ないと思えます。

<2019.8.25 記>

（仙台原子力問題研究グループ I）

再循環ポンプ入口温度挙動の考察



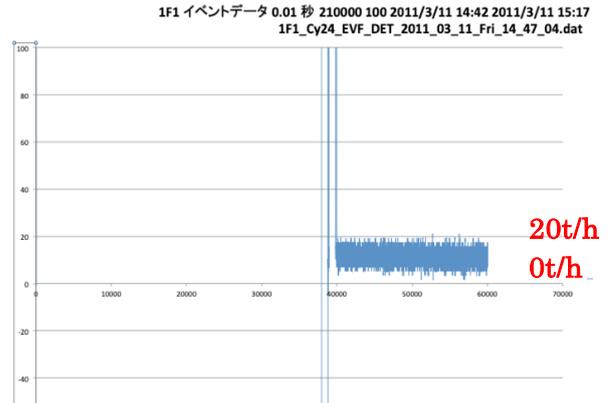
- ①ICの作動により、再循環ラインB系に冷たい水が注入されると、再循環ラインの自然循環が減少していく。
- ②IC戻り水の一部は、ダウンカマ側に逆流する。温度計(B)は、IC注入箇所より压力容器側に設置されているため、この温度が低下する。
- ③ダウンカマ下部は流れが停滞している部分なので、この部分の温度も低下していく。
- ④再循環ラインA系は、ポンプトリップ後もわずかに自然循環しているため、このダウンカマの低温の水が、流れ込んでいく。このため、温度計(A)の温度も低下する。
- ⑤ICが停止すると、これらの部分の温度は上昇していくが、压力容器内のダウンカマ部の温度の上昇が大きい。
- ⑥IC(1台)が3回操作されたときには、温度計(B)は、戻り水と同じように、温度低下する。
- ⑦A系の温度計(A)は、ダウンカマの高温水が流入するので、IC作動時に高くなるような変化をする。

	炉心流量	PLRポンプA 入口温度	PLRポンプB 入口温度
時刻データ	t/h	DEGC	DEGC
2011/3/11 12:00	18345.25	271.53	272.355
2011/3/11 13:00	18392.5	271.635	272.43
2011/3/11 14:00	18336.5	271.545	272.52
2011/3/11 14:30	18320.75	271.725	272.445
2011/3/11 14:40	18326	271.59	272.43
2011/3/11 14:45	18352.25	271.665	272.445
2011/3/11 14:46	18336.5	271.74	272.49
2011/3/11 14:47	6343.75	271.29	272.25
2011/3/11 14:48	10.5	258	257.64
2011/3/11 14:49	14	256.29	256.14
2011/3/11 14:50	12.25	256.905	256.725
2011/3/11 14:51	10.5	257.64	257.16
2011/3/11 14:52	8.75	258.015	257.58
2011/3/11 14:53	12.25	258.315	229.2
2011/3/11 14:54	10.5	248.7	138.945
2011/3/11 14:55	12.25	192.075	129.555
2011/3/11 14:56	12.25	155.13	126.945
2011/3/11 14:57	10.5	145.275	125.61
2011/3/11 14:58	10.5	142.425	124.14
2011/3/11 14:59	14	140.28	123.24
2011/3/11 15:00	12.25	139.29	122.595
2011/3/11 15:01	15.75	138.555	122.655
2011/3/11 15:02	12.25	138.06	123.03
2011/3/11 15:03	14	138.075	123.36
2011/3/11 15:04	12.25	137.985	123.78
2011/3/11 15:05	15.75	138.81	124.29
2011/3/11 15:06	12.25	139.245	124.695
2011/3/11 15:07	8.75	140.13	125.01
2011/3/11 15:08	15.75	140.79	125.46
2011/3/11 15:09	10.5	141.855	125.655
2011/3/11 15:10	10.5	143.445	125.865
2011/3/11 15:11	12.25	145.71	126.12
2011/3/11 15:12	14	148.155	126.225
2011/3/11 15:13	12.25	150.45	126.33
2011/3/11 15:14	14	152.535	126.525
2011/3/11 15:15	14	154.62	126.555
2011/3/11 15:16	15.75	156.615	126.645
2011/3/11 15:17	14	159.33	126.585
2011/3/11 15:18	10.5	170.415	105
2011/3/11 15:19	12.25	167.7	121.47
2011/3/11 15:20	8.75	160.335	127.17
2011/3/11 15:21	10.5	158.28	128.085
2011/3/11 15:22	10.5	157.875	128.19
2011/3/11 15:23	10.5	157.89	128.325
2011/3/11 15:24	12.25	161.94	129.105
2011/3/11 15:25	15.75	166.035	116.205
2011/3/11 15:26	14	161.355	129.435
2011/3/11 15:27	12.25	156.765	132.24
2011/3/11 15:28	14	155.865	132.66
2011/3/11 15:29	12.25	155.805	132.57
2011/3/11 15:30	15.75	155.985	132.48
2011/3/11 15:31	8.75	156.21	132.285
2011/3/11 15:32	15.75	162.375	131.94
2011/3/11 15:33	14	167.895	121.95
2011/3/11 15:34	15.75	162.96	133.425
2011/3/11 15:35	10.5	156.09	135.915
2011/3/11 15:36	10.5	154.935	136.185

< 9.22 追記 >

その後、原子力資料情報室・上澤千尋さんから超膨大な「100分の1秒毎データ」をお送りいただき、また（膨大なデータ処理に私が“手こずる”と正確に見越して！）当該「炉心流量データ」をグラフ化したものも送ってくれました【右上図：トリミング後】。当然と言えば当然ですが、1分毎データと同様に「5～20t/h」の範囲で変動していますが、「ゼロ」ではありま

せん（上澤さんによれば、2・3号機も同様の炉心流量（≠0）とのこと）。

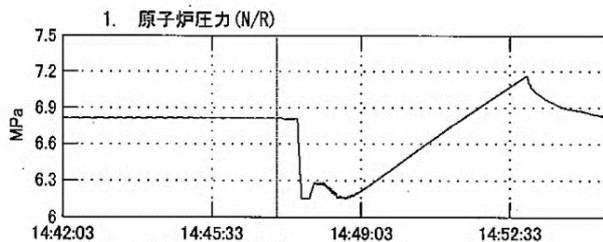


ここで、炉心流量「18000t/h」は、通常出力（100%）で、再循環ポンプ P L R 2 台稼働時かつ主復水器で主蒸気の冷却・減圧がなされている場合のものであることに注意する必要があります。<多少“数値遊び”をすれば、P L R 流量（5400t/h/台）の2台分=10800 t/h が炉心流量の60%（3/5）に相当し、ジェットポンプ J P の吸い込み作用により 1.7 倍（5/3）に増幅されるとすれば「18700 t/h」になります（J P は 1090t/h/台、20 台合計で「21800t/h」。すると P L R は 50%設計？）。また、地震前の炉心流量（18000t/h）と主蒸気流量（2500t/h）の比は「7.3 : 1」で、これは炉心の上に設置された「気水分離器（109 器）」の分離性能「水 177.0 t/h/器 : 蒸気 23.1 t/h/器 = 7.7 : 1」に相応します。>

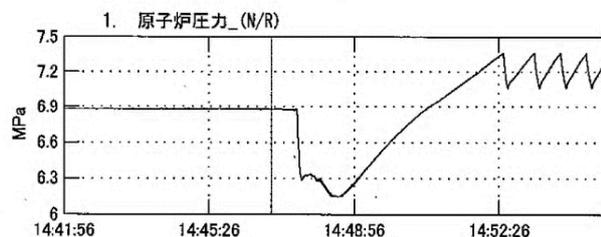
実際には、原子炉は地震加速度大で 14:47「スクラム」しており、単純に考えれば、崩壊熱（7-5%）に対応する炉心流量は「18000t/h」の約 1/20（7-5%）の「1000 t/h」となりそうですが、P L R 「停止」で炉内は「自然循環」となり、さらに主蒸気隔離弁 M S I V 「閉」で主復水器による除熱は不能となっており、上記の比例計算は“成り立たない！”と思われま。8.25 稿記載の通り、自然循環の駆動力（炉心流量を生み出す源）は「①崩壊熱による主蒸気発生」ですが、M S I V 閉（隔離）後の圧力容器内では圧力・温度上昇が可能な分しか主蒸気は発生（気化）できず、その気化熱を上回る分の崩壊熱は、炉圧・炉水温上昇に使われます。ただし、それは緩慢なもので、1号機【次頁上】では（スクラム直後 6.8MPa から 6.2 MPa に減圧後）圧力はゆっくり上昇し、5 分後の 14:52 に非常用復水器 I C を作動（7.13MPa・15 秒）させたものです（7.27MPa 設定の S R V は作動せず）。

上澤さん情報で同様の炉心流量（≠0）という 2 号機【次頁下】でも、同じく緩慢な圧力上

昇がみられ（3号機も）、14:52頃にSRVが作動（7.44MPa設定）しています。



グループ名称：1F-2(1) 原子炉圧力(1)



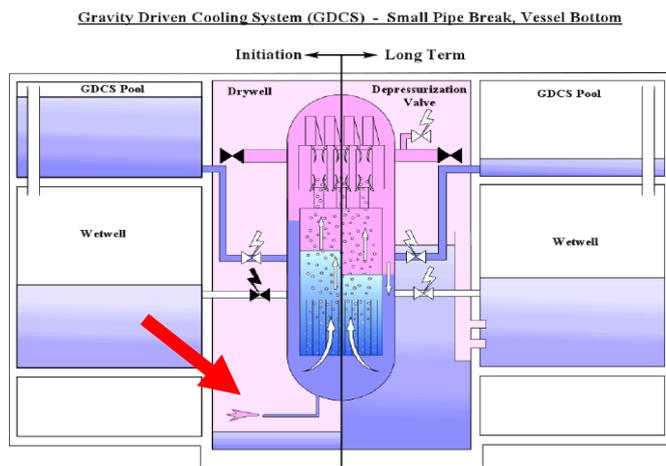
このように、スクラム後・隔離後の主蒸気発生は少量に留まる（緩慢）ことからすれば、対応する炉心流量が10~20t/h程度でも特に不思議ではないと思われます。

試しに、1号機のスクラム後の崩壊熱の積分値である「総熱量」を文献[1]の式で1分刻みで計算し、1分間の「増加熱量」に対応する「予想蒸発量」（崩壊熱がすべて蒸発熱（主蒸気）に変わると仮定）を求め（285℃での蒸発熱 1511 kJ/kg：ネット「蒸気表」より）、その値から1分刻みの「予想炉心流量」（蒸発分の水が炉心下部から流入すると仮定）を求め、実際の1分毎データ（右の2欄）と比較してみました。すると、実際には崩壊熱の1~2割程度が主蒸気発生に使われ、残りは炉圧（主蒸気温度）や炉水温の上昇に転換されていることが示唆されます（14:52以降はICによる冷却・減圧開始後である点に注意）。

時刻データ	経過時間 秒	★総熱量 GJ	増加熱量 GJ/min	▲予想蒸発量 t/min	予想炉心流量 t/h	実炉心流量 t/h	蒸発分 t
2011/3/11 14:46						18336.50	305.61
2011/3/11 14:47	0	0.00				6343.75	105.73
2011/3/11 14:48	60	2.86	2.86	1.89	113.46	10.50	0.18
2011/3/11 14:49	120	4.93	2.08	1.37	82.49	14.00	0.23
2011/3/11 14:50	180	6.79	1.85	1.23	73.64	12.25	0.20
2011/3/11 14:51	240	8.51	1.72	1.14	68.39	10.50	0.18
2011/3/11 14:52	300	10.14	1.63	1.08	64.72	8.75	0.15
2011/3/11 14:53	360	11.70	1.56	1.03	61.92	12.25	0.20
2011/3/11 14:54	420	13.20	1.50	0.99	59.67	10.50	0.18
2011/3/11 14:55	480	14.66	1.46	0.96	57.81	12.25	0.20
2011/3/11 14:56	540	16.08	1.42	0.94	56.23	12.25	0.20
2011/3/11 14:57	600	17.46	1.38	0.91	54.86	10.50	0.18
2011/3/11 14:58	660	18.81	1.35	0.89	53.65	10.50	0.18
2011/3/11 14:59	720	20.13	1.32	0.88	52.57	14.00	0.23
2011/3/11 15:00	780	21.43	1.30	0.86	51.59	12.25	0.20
2011/3/11 15:01	840	22.71	1.28	0.85	50.71	15.75	0.26
2011/3/11 15:02	900	23.96	1.26	0.83	49.91	12.25	0.20
2011/3/11 15:03	960	25.20	1.24	0.82	49.16	14.00	0.23
2011/3/11 15:04	1020	26.42	1.22	0.81	48.47	12.25	0.20
2011/3/11 15:05	1080	27.63	1.20	0.80	47.84	15.75	0.26

★ Heat-Transfer Control Lab. Report No. 1, Ver. 4 (HTC Rep. 1.4 2011/04/13)
 原子炉内が崩壊熱のみによって加熱されている場合に必要の水の投入量の推定 2011/04/13改訂(Ver4)
 東北大学 流体科学研究所 圓山・小宮研究室
 ▲ 蒸気表より：285℃で1511kJ/kg

次に、「細いジェットポンプ計測配管」破損に対する木村氏の懸念は、(やはり破片等の目詰まりではないようで、その意味で8.25推測は的外れでしたが) 压力容器外部への冷却水流出（小LOCA）による②炉心流量・③自然循環の喪失のようです。でも、PLR「停止」・MSIV「閉」と同じ状態の自然循環炉「ESBWR」[2]では【右図】、小口径配管破断で一次冷却水が炉外に流出（赤矢印）しても（破断初期が左側、右側は長時間後）、①・②・③の循環は継続される（ゼロにはならない）ことが分かります。このように、仮に木村氏が疑う



小LOCAが生じたとしても、(シュラウド内・炉心付近で)冷却水が確保されている状態では、①の主蒸気の上昇・流れは物理的(密度差)に必ず生じることから、そのような状況で‘発生したアワが燃料棒に付着・静止したまま(ドライアウト)’ということは考えられず、崩壊熱除去が不能となることはないと思われます。

一方、確かに「ジェットポンプ計測配管」は振動などで破損し易いとされており、その破損をもって『福島第一原発は津波の前に壊れた』と主張することは間違いではありませんが、文春論考では配管破損(小LOCA)に伴う流出箇所での温度・圧力上昇などの直接証拠や、火災警報や放射線モニター警報の発信などの間接証拠なども、一切提示されておらず、説得力に

欠けていると思います。

8.25 稿および本追記(試算等)について、「ご意見・ご批判」お待ちしております。

<参考文献>

[1] 東北大学 流体科学研究所 圓山・小宮研究室「原子炉内が崩壊熱のみによって加熱されている場合に必要の水の投入量の推定」Heat-Transfer Control Lab. Report No. 1, Ver. 4 (HTC Rep. 1.4 2011/04/13) (*ただし記載の積分式に符号の誤記あり)

[2] Roy Challberg [ESBWR Design Summary] NRC Staff -GE Meeting, June 20 and 21, 2002. Rockville, Maryland



【女川原発アラカルト】

【7月】

21日(日) 参議院宮城選挙区、野党統一候補で「消費税ゼロ」「原発ゼロ」を掲げる立憲民主党新人の石垣のり子氏(474,692票)が、自民党現職の愛知治郎氏(465,194票)を約9,500票差で破り、初当選。

仙台湾鳴り砂探求会、30カ所の鳴り砂聞き比べ講座、せんだい3・11メモリアル交流館。

22日(月) 「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟控訴審第1陣第6回公判、仙台高裁、「原告本人尋問」6名。

東北電力、女川町の全戸と石巻市の一部世帯約3900戸を対象に「こんにちは訪問」を開始。8月7日まで。女川原発所員が、2号機再稼働と1号機廃炉へ、戸別に状況説明。

26日(金) 脱原発東北電力株主の会9名、東北電力の「説明の場」で42名の課長等と討論。ハーネル仙台3階蔵王の間。

東北電力、女川1号機の「廃止処置計画」を公表。県・女川町・石巻市に安全協定に基づく事前協議を申入れ。

原子力規制委員会、女川原発2号機の新規制基準の適合性審査169回目会合を原子力規制庁で開催。東北電力、地盤と地震、津波について資料を示し改めて説明。規制委、説明が不十分だとして審査は継続、東北電力が目指した7月末終了は不可能に。

29日(月) 『ふるさとを返せ』福島原発避難者訴訟控訴審第6回公判、仙台高裁101号法廷、寺西俊一教授(環境経済学)「証人尋問」。

東北電力、女川1号機の「廃止処置計画」

を規制委員会に申請。

30日(火) 規制委適合性審査170回目会合。〈重大事故等対策〉技術的能力(大規模損壊)に関しては、テロ対策を含むとして非公開。

同日、規制委適合性審査171回目会合。東北電力、耐震設計方針等2項目を改めて説明。国際環境NGO「FOE Japan」、HISスーパー電力(東京)が角田市に建設中のバイオマス(パーム油)発電所の建設中止を求める約15万筆(国内約3100筆)の署名を送ったと、国会内で記者会見し発表。

31日(水) 原発問題住民運動県連絡センター、女川原発再稼働STOP街頭署名活動、平和ビル前。

東北電力原田社長、定例記者会見で、同日正式に廃炉が決まった東京電力福島第2原発全4基の廃炉費用約4000億円のうち、3・4号機の受電契約分として、東北電力が約350億円程度を負担することを明らかにした。約240億円は既に「他社購入電力料」として支出済み。残り約110億円は、廃炉会計制度を適用して今後10年かけて支出。

【8月】

1日(木) 日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ、「第63回こども甲状腺エコー検査in蔵王町」、蔵王町地域福祉センター、主催/3.11後の健康を考える会(サクラソウの会)。検診医/寺澤政彦医師(てらさわ小児科・仙台市)。29組49名が受診。

2日(金) 「第18回女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会」、パレス宮城野2階はぎの間、議題:津波-耐津波設計方針、

重大事故対策－炉心損傷防止／重大事故等対処設備。中嶋県議含む市民6名＋記者4名傍聴。

住友商事、「(仮称)仙台北松発電所建設計画に係る環境影響評価準備書の説明会」、多賀城市文化センター多賀城市民会館展示室。近隣住民約80名参加。北米輸入の木質ペレット使用のバイオマス発電に懸念や批判、反対意見が多数。翌3日、エルパーク仙台ギャラリーホールでも開催。

3日(土) 女川から未来をひらく夏の文化祭プレ企画「つつちーのお絵描きワークショップ」主催:実行委員会、女川小学校体育館。

5日(月) 「第150回女川原子力発電所環境調査測定技術会」、パレス宮城野2階はぎの間。市民1名＋2名傍聴。

8日(木) 東北電力子会社の東北自然エネルギー、老朽化した能代風力発電所の建て替えのため、環境影響評価準備書を世耕経産相に届出。出力600kW 24基から大型化し2300kW 7基にし、総出力1万4400kWは維持。21年12月運転開始予定。

9日(金) 規制委適合性審査172回目会合。東北電力、重要施設の基盤地盤と周辺斜面の安定性について改めて説明。規制委、「おおむね妥当」と判断。火山活動の影響評価についても変更点を改めて説明。

13日(火) 株主の会、東北電力本社で議決権行使書閲覧作業。6名参加。

東北電力、県・女川町・石巻市ならびに登米市・東松島市・涌谷町・美里町・南三陸町に7月分の女川原発の点検状況報告。

14日(水) 脱原発仙台市民会議、仙台市議選立候補予定者68人に対する女川原発再稼働に関するアンケート結果を公表。回答者36人中、再稼働反対は21人。

17日(土) エネシフみやぎ、『夏のエネシフカフェ～欧州のエネルギー事情を宮城県議とともに熱く語ろう～「原発使用済み核燃料最終処分場 オンカロ」ってなんだ?』、仙台市市民活動サポートセンター6階セミナーホール、「再生可能・自然エネルギー先進国の現状等に関する調査について」かんま進県議、「世界で唯一の原発使用済み核燃料最終処分場オンカロ(フィンランド)」岸田清実県議、「再生可能エネルギー先進地 ライン・フンスリュック郡(ドイツ)視察」坂下康子県議。約50名参加。

『2019 女川から未来をひらく夏の文化祭』、女川町まちなか交流館、講談神田香織「福島

二話さんまの昆布巻」上映、竹浦獅子振り、江島法印神楽、ワークショップなど、実行委主催(代表 阿部みきこ)。

18日(日) 女川から未来を考える会、『講師・神田香織さんに行く女川原発見学ツアー』、22名参加。

風の会、『ピースサイクル2019 仙台交流会』、エルパーク仙台創作アトリエ。ピースサイクル2019 報告／宮城の県民投票署名運動等の報告／意見交換。走者4名＋12名参加。

21日(水) 規制委員会、女川3号機の放射線モニター数量不足を保安規程違反(監視)と判定。

27日(火) 「第150回女川原子力発電所環境保全監視協議会」、ホテル法華クラブ仙台ハーモニーホール。市民2名＋1名＋記者2名傍聴。

丸森町、町議会全員協議会で、福島第一原発事故に伴う2013、14年度分のADRで、東電側が1,421万円を支払う、原子力損害賠償紛争解決センターの2度目の和解案受け入れ方針を表明。職員給料は、また含まれなかった。(9月4日、町議会定例会本会議で原案通り可決)

28日(水) 日本カトリック正義と平和協議会平和のための脱核部会、鎌田慧氏脱原発講演会「六カ所村の過去・現在・これから」、カトリック仙台教区元寺小路教会大聖堂。「日韓脱核平和巡礼と懇談会」メンバー11名を含む約70名が参加。

東北電力、女川2号機で、使用済み燃料プールを冷却するポンプが約20分間停止する事故があったと発表。(9月5日、作業ミスが原因と調査結果を公表)

30日(金) 規制委適合性審査173回目会合。東北電力、(地震)敷地の地形、地質・地質構造などを改めて説明。地震・津波分野の11項目について、「今後議論すべき論点はなくなった」と石渡明委員が発言。東北電力、次回会合で審査内容をまとめた資料を説明する予定。

「第19回女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会」、ハーネル仙台3階蔵王B。議題:重大事故対策－格納容器破損防止、事故対応の基盤整備－制御室／緊急時対策所。中嶋県議含む市民4名＋記者3名傍聴。

【9月】

2日(月) 県と女川町、石巻市、女川3号機の線量モニター保安規程違反で、安全協定に基づく立ち入り調査を実施。調査は2016年6月以来3年3ヶ月ぶり。30^キ圏(UPZ)の

登米、東松島、涌谷、美里、南三陸の5市町も同行。

3日(火) みやぎ福島原発損害賠償請求訴訟(ふるさと喪失訴訟)第28回公判、仙台地裁。

5日(木)『ふるさとを返せ』福島原発避難者訴訟控訴審第7回公判、仙台高裁101号法廷、「原告本人尋問」。

白石市、市議会定例会に、福島第一原発事故に伴う2014、15年度分のADRで、東電側が1,367万円を支払う、原子力損害賠償紛争解決センターの2度目の和解案を提出。

6日(金) あいコープみやぎ脱原発エネルギーシフト委員会、鎌仲ひとみ監督と学ぶ『原子力防災～いざという時大切な家族を守れるか?～』、日立システムズホール・エッグホール。約50名参加。

8日(日) 第59回宮城県母親大会 in 石巻、石巻蛇田中学校。学習・話し合い・交流・体験・見学の24の分科会。13分科会「原発ゼロをめざして」助言者:多々良哲氏(女川原発の再稼働を許さない!みやぎアクション世話人)。

レノバ(東京)、「仙台バイオマス発電所建設計画に係る環境影響評価準備書の説明会」、夢メッセみやぎと多賀城市文化センター多賀城市民会館。輸入燃料使用の木質バイオマス発電に懸念や批判、反対意見が多数。住民約140人が出席。

9日(月) 秋田の再生可能エネルギー発電事業者が、送電線接続の際の工費全額負担は不当と、東北電力に工事負担金の返還を求めた訴訟の第1回口頭弁論、仙台地裁。

10日(火) 県保険医協会、石巻市の医療機関に実施した女川原発事故時の避難に関する調査結果を公表。5医療機関で、自力避難の手段「なし」。結果を踏まえ、女川原発2号機再稼働中止を求める陳情書を県議会に提出。

11日(水) 県、栗原市鶯沢北郷菅原で8月31日に捕獲されたツキノワグマから130 Bq/kgの放射性セシウムを検出したと発表。

東北電力、県・女川町・石巻市ならびに登米市・東松島市・涌谷町・美里町・南三陸町に8月分の女川原発の点検状況報告。

郡和子仙台市長、道路照明灯の電力契約を解除し忘れた問題で、東北電力と和解することで合意したと発表。

14日(土) 放射能から子どもたちを守る栗原ネットワーク『学習交流会』(61回目)、栗原市市民活動支援センター多目的室。①映画「東電刑事裁判 動かぬ証拠と原発事故」(26分)上映と今後の運動の方向について ②「放

射能汚染物の管理・処分問題」問題 ③女川原発再稼働をめぐる動き等。

17日(火) 富谷市、「市自然環境等と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例」案を、24日開会の市議会9月定例会に提出予定。

19日(木) 東北電力、女川原発2号機の新規制基準適合性審査での変更点を盛り込んだ『補正書』を原子力規制委員会に提出。審査は最終盤に。

規制委員会、女川1号機の「廃止処置計画」の審査を開始(1回目)。東北電力、申請書の概要を説明。

20日(金) グローバル気候マーチ in 仙台、肴町公園、学生等約50名参加。石炭火力・バイオマス発電所建設計画反対や女川原発再稼働反対も訴えた。スウェーデンのグレタ・トゥンベリさん(16)が地球温暖化防止を訴え、世界約150カ国以上で数百万人が参加。

原田東北電力社長、記者会見で、東京電力など4社が検討している原発共同事業化について、「参加要請はない」として、参加には否定的と強調。

(空)

●脱原発みやぎ金曜デモ

【7月】

26日(金) 第335回「金曜デモ」、21日の参議院選挙・宮城県選挙区では、「原発ゼロ」を掲げる候補が当選! 国や県はこれに示された民意を尊重すべきではないでしょうか、脱原発をめざす議員がひとりでも多くなるよう、私たちががんばりましょう!と、錦町公園から25名の市民が参加。

【8月】

2日(金) 第336回「金曜デモ」、女川原発は東日本大震災で大きなダメージをうけた「被災原発」、原子力規制委員会の審査に多くの時間とエネルギーをさき、また安全対策に女川2号機だけでも3000億円以上の巨額のお金がかかるのであれば、1号機に続き、2号機も廃炉にすべきではないでしょうか?と、勾当台公園野外音楽堂から25名の市民が参加。

11日(日) 第337回「日曜デモ」、2011年3.11の大震災と福島原発事故から8年と半年の月命日、鎮魂の意を込めて、コールをしないで静かに歩く“サイレント脱原発デモ”、二度と原発事故を起こさせないためにも、粘り強く

「原発やめよう」の声を上げ続けましょうと、元鍛冶丁公園から30名の市民が参加。

23日(金) 第338回「金曜デモ」、蒸し暑い中、勾当台公園野外音楽堂から30名の市民が参加。

30日(金) 第339回「金曜デモ」、「日韓脱核平和巡礼と懇談会」からのアピール「核のない平和な世界のために！私たちがいのちとその美しさを護ることができますように」の後、韓国にも日本にも原発いらない！共に頑張っていきましょうと、勾当台公園野外音楽堂から、韓国からの方々11名も含めて50名の市民が参加。

【9月】

6日(金) 第340回「金曜デモ」、9月19日の原発事故の刑事責任を問う裁判の判決、関連死者2000人以上、未だ4万人とも5万人ともいわれる人々が帰れない事態を起ししながら、勝俣元会長ら東電元幹部の3人の被告は自己弁護に終始、原告団の武藤類子さんは、「責任を問わねば、本当の意味での復興はあり得ない」と訴えていますと、肴町公園から20名の市民が参加。

13日(金) 第341回「金曜デモ」、原子力規制委員会が女川原発での放射線モニター設置に関し「保安規定違反」と断じ、急きょ県などが立ち入り調査、一方、2号機では、先月、使用済み燃料プールを冷却するためのポンプが停止する事故、当初は「自動停止」としていたのに、実際は作業上のミスである事が判明、10年近く動いていない女川原発を、こんな体制で果たして安全に動かすことができるのでしょうか？ 再稼働はせずそのまま廃炉にしようではありませんか！と、元鍛冶丁公園から30名の市民が参加。

20日(金) 第342回「金曜デモ」、東京電力旧経営陣勝俣たち福島原発事故の責任者が全員無罪との判決に憤りつつ、元鍛冶丁公園から35名の市民が参加。

◆(旧古川地域) 脱原発大崎demo金曜行動・毎週金曜17時半集合・あさひ中央公園

◆(塩釜地域) 塩釜脱原発デモ・毎週金曜17時半集合・下馬駅裏宮城民医連事業協前17時45分デモ出発

◆(仙台長町地域) 原発も戦争もNO！たいはくアクション・第3水曜日17時半～蛸薬師境内集合後デモ行進

◆(岩沼市) 原発ゼロ岩沼歩き隊 毎月第3金曜15時～岩沼駅東口広場

●汚染廃棄物「試験焼却」をめぐる動き

【7月】

22日(月) 大崎地域広域行政事務組合、焼却施設3ヶ所で6回目の試験焼却を開始(～26日)。住民ら、大崎市内で抗議集会。

31日(水) 放射能汚染廃棄物の焼却差止め大崎住民訴訟第5回公判、仙台地裁101号法廷。原告弁護士5名、原告・市民約60名傍聴＋記者3名。被告大崎組合側弁護士・職員等9名。報告集会、仙台弁護士会会館4階会議室。

【8月】

11日(日) 加美町長選(6日告示)、汚染牧草焼却処理に反対する現職の猪俣洋文氏が、焼却推進の元副町長の吉田恵氏を破り、当選。「放射能汚染から子どもを守る実行委員会in加美」等が支持。

27日(火) 栗原市、市議会調査特別委員会で、堆肥化製造施設の候補地として14ヶ所を調査していると公表。

【9月】

12日(木) 県畜産試験場(大崎市)、周辺住民に事前説明なしで17年から実施していた汚染牧草の場内すき込み処理を住民の反発で中断。2回目の住民説明会で謝罪。

14日(土) 大崎市と大崎地域広域行政事務組合、農林業系汚染廃棄物の試験焼却に関する結果報告会を大崎市役所で開催。市民約30人が参加、反対意見多数。

(空)

『鳴り砂』2-102号(通巻281号)別冊

2019年9月20日

発行●みやぎ脱原発・風の会

〈連絡先〉〒980-0811

仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター内

レターケース No.76

電話&FAX 022-356-7092(須田)

<http://miyagi-kazenokai.com/>